

「不況の今だからこそ産学連携」 理事 水谷 尚美(産学官連携センター長)

今、日本はこれまでに経験したことがないほどの不景気に見舞われているわけですが、私は本学の産学官連携センターのスタッフに「だからこそ産学連携を推進する絶好のタイミングだ」と鼓舞しながら、これからの新しい行動指針を早急に策定し、実行に移すよう指示しているところです。

日本ではこれまでの高度成長の流れの中で産業界では技術の自前主義が主流となり、豊富な資金力にもよって基礎的な研究まで「中央研究所」と称し自社内に取り込む傾向が強くなり、産学連携は思うほどには進んでいないのが実情かと思えます。むしろ大学への役割期待は大量の質の高い新卒者を供給することにあつたように思います。

産学連携的発想も無くはなかったが、組織的な取り組みに優れた欧米の大学を活用することが一般的になっていきました。(現在でも日本企業からの欧米の大学への資金投入額を見ると日本の大学への金額の倍以上です)私自身最近まで企業にあって研究開発を所管する立場にあつたものから見ますと、概して日本の大学には企業の立場になって物を考えると言う習慣が無いことが大きな理由かと思えます。

ところでこのような不況になってみると、産業界ではどこもが研究開発投資(基礎研究的な研究テーマ)を費用削減の対象とすることになります。そこで、これまで自前で開発を進めてきた基礎的な研究(長期的、シーズ的)を本学を活用する事で、効率的かつ経済的に継続して頂く場を提供したいと考えます。

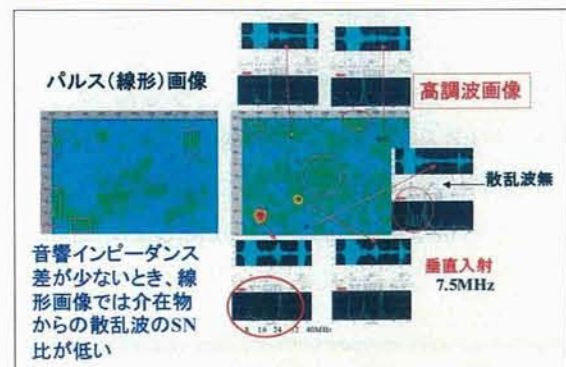
この為、我々大学側もこれまでの取り組みを反省し、「受身の連携」から「攻めの連携」に軌道修正を図りたいと思えます。具体的には、社会や産業界の時代背景を踏まえたニーズを的確に把握し、全学の専門領域を融合させることで自分たちに何が出来るかを考え、企業サイドの持つ課題解決・新規事業発掘など「ソリューション提案型」のアプローチをしたいと思えます。

既に一部の大学(東大など)で表現に違いがありますが、同様の試みが始められております。ただし、いずれの活動も大企業と言われる大手企業を対象にしたものばかりです。本学では、構成割合として中堅企業の多い協力会のメンバー企業様を対象として、どんなアプローチが出来るのか検討に入りました。本年6月頃からは順次行動に移したいと思っております。

これからも、研究協力を窓口として会員企業の皆様と本学が良きパートナーシップを構築し、この地における産業の発展に貢献したいものだと思います。



第14回高度技術セミナー開催



「ものづくり支援のための超音波非破壊評価・検査」

- ◆講師
名古屋工業大学大学院機能工学専攻准教授 伊藤 智敬
名古屋工業大学名誉教授・(有)超音波材料診断研究所長 川嶋 紘一郎
- ◆日時:平成21年1月14日(水)10:00~16:00、15日(木)10:00~16:00
- ◆場所:名古屋工業大学3号館8階814室、817室
予備:同22号館インキュベーション施設交流プレゼンテーションルームA・B (有)超音波材料診断研究所

セミナーの概要

各種工業生産においてゼロディフェクトが要求されるようになり、直接検査できない表面直下及び内部に有害な微小欠陥が存在しないことを保証する非破壊評価・検査が求められています。この課題の解決に向けた、超音波法及び名古屋工業大学で開発された非線形超音波非破壊評価・検査法について、講義と最新の測定機器を用いた実習により、その技術の基礎と最先端を学び体験していただくこと、本セミナーを企画しました。

当日の参加者は、14名(内、協力会会員企業6名)で本テーマへの関心の深いことがうかがえました。

第15回サテライトセミナー開催

平成21年2月6日、春日井市総合体育館(春日井市)にて、春日井商工会議所とタイアップし、「第15回サテライトセミナー」を開催しました。春日井市を中心とした企業の皆様の多様なニーズに合致した技術シーズを提供するテーマをえらび、参加者は71名と盛況でした。尚、今回の交流会は、「第2回かすがい発見ビジネスフォーラム」が同時開催されており、これらの方々も合流参加され大盛況であり、会場は大混雑で写真撮影ができないほどでした。

- 講演内容は下記のとおり、4先生による講演とポスターセッションでの出展がありました。
- | | | |
|------------------------------------|-----------|----------|
| 講演1 「言葉の意味を学習するロボット」 | (情報工学科) | 田口 亮 助教 |
| 講演2 「プラズマの材料プロセスへの応用」 | (機械工学科) | 木村高志 准教授 |
| 講演3 「パーチャルリアリティとその可能性」 | (情報工学科) | 舟橋健司 准教授 |
| 講演4 「ナノ中空粒子から始まる不思議な世界 ―成功する産学連携―」 | (環境材料工学科) | 藤 正督 教授 |

<ポスターパネルテーマ>

- | | |
|--|--|
| 田口 亮 助教: ・コミュニケーションの中に意味づけされる単語の学習 ・モデル選択による言語獲得手法 | 木村高志 准教授: ・大気圧プラズマプロセス装置の試作 ・プラズマアブレーション技術を導入した材料プロセス |
| 舟橋健司 准教授: ・家庭利用目的のVR調理学習システム ・触れるオンラインショッピングシステム | 藤 正督 教授: ・粒子から生まれる機能材料―ナノ粒子、多孔体、コンポジット― 〜ゲルキャスト法による機能性多孔セラミックスの開発〜 |

第10回分野別セッション開催—情報工学分野:「新しい価値を生み出す情報技術への新展開」—

■平成21年3月6日(金)15:00~19:00

情報工学は単にコンピュータと通信の分野ではありません。高度に情報化された現代の産業社会で知的かつ創造的活動を担う環境を次々と作りだし、新たな価値を生み出すための技術に発展してきています。今回のセッションでは、こうした新しい情報工学の中から情報を価値に換える3つの話題を提供しました。

参加者は、企業会員が7社10名、個人会員1名、役員2名(石丸会長、品田理事)、学内から計16名と、合計では約30名となり、熱心に講演を聴講され、2研究室へのラボツアーおよびさらに最後の校友会館でのコーヒー付き交流会への参加率も良好でした。年度末のお忙しい中、出席下さった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

- 講演内容は、
- | | |
|------------------------------------|-----------|
| 学科紹介 「名工大情報工学科の研究分野」 | 大塚 信博 教授 |
| 講演1 「ロボットに心を宿らせる情報技術」 | 加藤 昇平 准教授 |
| 講演2 「情報氾濫の時代の大規模ネットワーク内情報探索と蓄積の技術」 | 菅原 真司 准教授 |
| 講演3 「最新の統計的機械学習技術とその実問題への応用」 | 竹内 一郎 准教授 |

<研究室見学、講師との懇談>

加藤、菅原先生案内による研究室見学と4先生を囲む懇談会を実施。いずれも予定時間をオーバーするほど、活発で友好的な交流でした。



平成21年度産学官連携C—協力会の開催事業予定

| | | | |
|---------|---|---------|--------------------------------|
| 平成21年4月 | | 10月 下旬 | 第14回分野別セッション(電気電子) |
| 5月 | 14日 第11回分野別セッション (建築デザイン・都市社会) | 11月 上旬 | テクノフェア・研究室見学会 第17回サテライトセミナー |
| 6月 | 5日 研究協力会総会および特別講演会 | 12月 | 第12回知財活用フォーラム |
| 7月 | 上旬 第12回分野別セッション(生命・物質工学) 第16回サテライトセミナー | 平成22年1月 | 下旬 第15回分野別セッション(機械) |
| 8月 | 第11回知財活用フォーラム | 2月 | 第18回サテライトセミナー |
| | 下旬 第13回分野別セッション(環境材料) | 3月 上旬 | 第16回分野別セッション(情報工学) |
| 9月 | 第15回高度技術セミナー | | |

(黒字:研究協力会主催、赤・青字:産学官連携C主催)